

夫婦別姓の問題点、 もっとよく考えて みませんか？

1 家族が同じ姓であるということ

結婚した夫婦がどちらかの姓を名乗るという制度は、我が国の伝統的家制度を基に、明治時代に定められました。歴史こそ浅いものの、その制度は定着し、今では家族として同じ姓を名乗ることは当たり前になっています。もとは他人同士であった夫婦が、ひとつの家族として繁栄していくためには、夫婦が同じ姓を名乗ることは有効な手段といえます。

2 夫婦別姓は本当に必要なのか

選択的夫婦別姓によって、働く女性が結婚後も仕事に不利益が生じないようにできるなど、利点としてよく言われます。しかし、結婚して姓が変わっても立派に活躍する人もいます。また、現在では旧姓を「通称」として使用することも広く行われています。なかには、「外国ではみな夫婦別姓なのだから日本も…」という声もありますが、日本の伝統や文化を捨ててまで外国に倣う必要は全くありません。それよりも、夫婦別姓が家庭等に及ぼす影響をもう一度考えてみるべきでしょう。

4 蔓延する個人主義

なにをやっても個人の自由、すべて個人で選択できる…、一見すると素晴らしい社会のように思えます。しかし、いちど選択した以上、なにが起こってもそれは選択した個人の責任です。選択的夫婦別姓も、ひとたび別姓を選択すれば、それによって家族や社会がどうなろうと選択した国民の責任であり、政府は助けてくれません。我が国に定着した制度を変えてまで、そのような社会にすることに利点があるのでしょうか。

3 なぜ夫婦別姓を推し進めるのか

核家族化が進む我が国では、家庭でも個人主義化が進んでいます。それに乗じて徹底した個人主義の社会を標榜する人たちが、改姓によって個人の人格権の一部が侵害されるとして選択的夫婦別姓を推進しています。彼らは、我が国がこれまで培ってきた家と家族の伝統を「封建的」「前世紀の遺物」などとして否定し、家意識と家制度の徹底的解体を目指しています。選択的夫婦別姓は、その手始めとして実現させようとしているのです。

選択的夫婦別姓によって、これ以上個人主義が蔓延したら
この国はどうなるのでしょうか…。

家族の絆はどうなるの？

〜夫婦別姓という選択〜

このごろ、世間では選択的夫婦別姓の問題が話題になっています。選択的夫婦別姓とは、男女が結婚してどちらか一方の姓を名乗るか、別々に従来姓を名乗るかを選択できることです。これまで何度も法制化を目指す運動が行われるたびに、夫婦別姓の問題点の多さから、実現することなく今日に至っています。今回話題になった背景には、政権交代が大きく影響しているようですが、夫婦別姓の世の中になったらどうなるか、もういちどよく考えてみませんか。



家族とは何でしょう？

私たち日本人は初詣や七五三、お墓参りなどで、神様やご先祖さまへの日々の感謝を通じて祖先を敬い、家族の絆を大切に子孫を育ててきました。私たちはこの世に生を受けてから両親をはじめとする家族に育てられ、やがて成人して結婚し家庭を築きます。そして子供を産み育てていく…。こうして私たちは何世代にも亘り命を繋いできました。家族は社会構成の最小単位であるといわれます。家族は私たちが一番身近に感じ安心できる場所でありたいものです。